

令和元年度
高知県安全教育推進事業
実践報告書



日高村立日下小学校

目 次

1 年度当初の現状と課題	・ ・ ・ ・ ・ 1
(1) 本校の強み	
(2) 課題	
(3) 生活安全意識調査からみえた課題	
2 重点取組	
(1) 重点テーマ	
(2) 取組の柱	
3 実施体制	・ ・ ・ ・ ・ 2
(1) 事業実施体制	
(2) 校内体制	
4 取組の経過	・ ・ ・ ・ ・ 2
(1) 通年の取組	
(2) 学期ごとの取組	
5 実践事例	・ ・ ・ ・ ・ 6
(1) 生活科を中心とした探究的な学習	
(2) 教科横断的な視点での学校安全計画の見直しと改善	
(3) 校内外の安全点検方法の改善	
(4) 特別活動を中心とした児童の安全意識向上と主体的な活動の充実	
(5) 地域や家庭と連携した学校安全体制の構築	
(6) 心身の健康管理を主体的に行える児童の育成	
6 成果と課題	・ ・ ・ ・ ・ 11
(1) 成果	
(2) 課題	
7 おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 13

巻末：資料1，資料2

「けが0の日下小学校」にしよう！

～ 高知県安全教育推進事業実践報告 ～

日高村は平成25年度からコミュニティ・スクール制度を導入しており、本校は、日頃から学校・保護者・地域が連携した教育活動を行っている。本年度はその強みを活かしながら、地域や関係機関等の人材を活用した児童の安全を確保できる協力体制を整備するとともに、安全教育の見直し・改善を図りながら実施し、地域と家庭と協働した学校安全推進体制の構築に向けて取り組むことを通して「主体的に考え、身のまわりのある危険を予測して自ら回避し、安全に行動できる児童の育成」をめざして取り組むこととした。

1. 年度当初の現状と課題

(1) 本校の強み

- ・平成25年度からコミュニティ・スクール制度を導入しており、本校は、日頃から学校・保護者・地域が連携した教育活動を行っており、協力体制が整備しやすい
- ・スクールガード・リーダー等による見守り体制が整っている

(2) 課題

- ・校舎が古く、安全面で課題がある
- ・校舎は不審者が侵入しやすい構造となっている
- ・通学路は東西に長く、狭い道や人家がないところが多く、安心安全ではない
- ・衝動的な行動をとる児童や危険認知の力が弱い児童が多い
- ・自他の安全について、主体的に考える力を育成する必要がある

(3) 生活安全意識調査からみえた課題

- ・【けがや事故をふせぐために】の領域において、応急処置の方法についての知識が不足している。
- ・【犯罪事故にあわないために】の領域において、犯罪に対する認識等が弱い。
- ・地域社会の一員として、校区や地域の安全について主体的に考えるための知識不足や意識が弱い。

2. 重点取組

(1) 重点テーマ

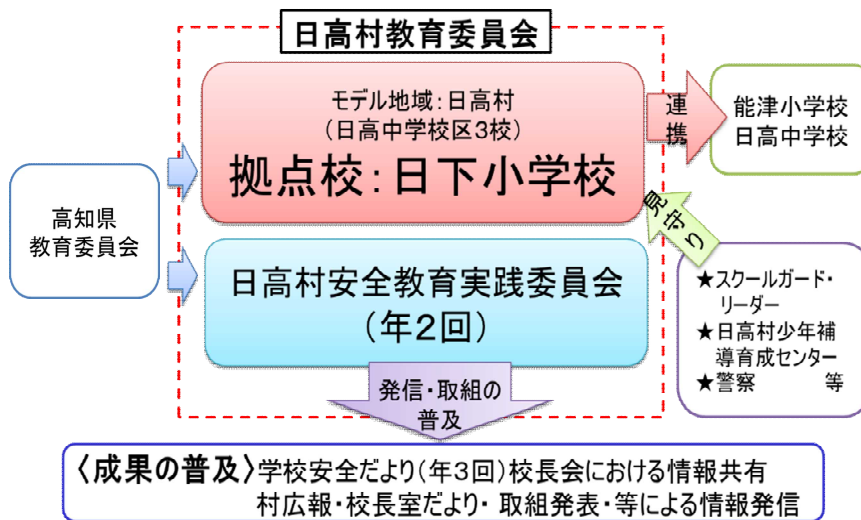
主体的に考え、身のまわりにある危険を予測して自ら回避し、安全に行動できる児童の育成

(2) 取組の柱

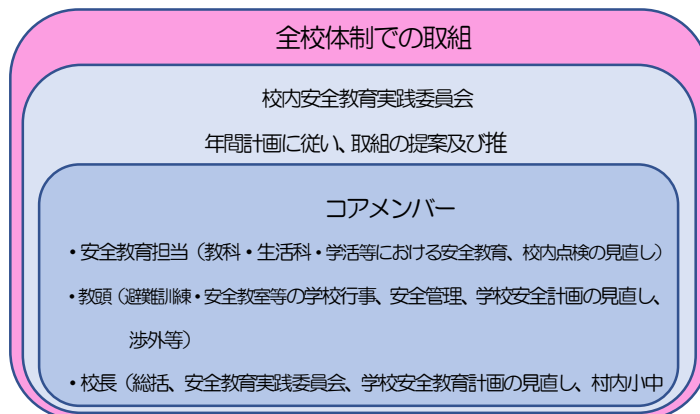
- ① 生活科を中心とした探究的な学習及び生活科の年間計画の改善
- ② 教科横断的な視点での学校安全計画の見直し及び改善
- ③ 校内外の点検方法の改善
- ④ 特別活動を中心とした児童の安全意識の向上と主体的な活動の充実
- ⑤ 地域や家庭と連携した学校安全推進体制の構築及び村内の小中学校への情報発信
- ⑥ 心身の健康管理を主体的に行える児童の育成

3. 実施体制

(1) 事業実施体制



(2) 校内体制



4. 取組の経過

(1) 通年の取組

- ・スクールガード・リーダーを中心とした見守り活動の実施（年間）
- ・交通安全週間に合わせ、保護者・教職員・地域代表等が登校時間に通学路に立ち、あいさつ運動や見守り活動を実施（年間2回）
- ・青色パトロールによる下校時刻の見守り活動の実施（年間）
- ・放課後子ども教室推進事業の実施（年間）
- ・校内安全点検の実施（学期1回）
- ・学校だより・校長室だより等による情報発信（年間適宜）
- ・日高村学校安全だよりによる情報発信（学期1回）
- ・定例校長会において進捗状況確認及び情報交換年間
- ・日高村教育委員会・学校共有ネットワーク等による情報発信（年間）

(2) 学期ごとの取組

< 1学期 >

4月

- ・職員会において「学校安全計画」「危機管理マニュアル」の共通理解(4/3)
- ・職員会において学校のきまりの確認・提示の実施(4/4)
- ・新入生への防犯ブザー配布(4/8)【対象：1年生18名】
- ・新入生下校指導(4/9～11)【参加人数：児童18名, 教職員5名, 地域ボランティア8名】
- ・交通安全(1年歩行・4年自転車指導)教室(4/17)
【参加人数：児童1年18名, 4年19名, 教職員6名, 地域ボランティア8名, 警察署員2名】
- ・定例校長会に参加。取組概要及び実施計画書説明、協力依頼(4/19)
- ・PTA総会において、本事業概要説明(4/20)
- ・第1回学校運営協議会で本事業の計画及び取組説明(4/24)
【参加人数：保護者・地域住民8名, 教育委員会2名, 教員3名】

5月

- ・避難訓練(地震)①(5/8)【参加人数：児童129名, 教職員18名】
- ・基本的生活習慣調査①(5/13～19)
- ・定例校長会に参く加。評価指標の説明・生活安全アンケート内容確認(5/16)
- ・日高村安全に関するアンケート①回答(5/17)
- ・AED使用を含む救急法講習実施(5/27)【対象：教職員16名】
- ・日高村少年補導センター運営委員会に参加(5/30)【参加者：校長, PTA会長】

6月

- ・生活安全アンケート(対象：児童・保護者・教職員)①実施(6/2)
- ・家族参観日実施(6/9)
*AED使用を含む救命救急講習会(保護者及び5・6年児童)
【参加者：5年生23名, 6年生23名, 保護者37名】
*緊急引渡し訓練【参加者：児童129名, 保護者83/99家庭】
- ・通学路における危険箇所調査における校長情報共有(6/11)
- ・通学路における危険箇所(防犯を含む)調査実施(6/13)
- ・校長会にて事業進捗状況確認。ポスター依頼。(6/17)
- ・第2回学校運営協議会開催(6/27)取組の方向性や事業計画の確認及び協議、学校安全計画や危機管理マニュアルの共有、危険箇所の確認
【参加人数：保護者・地域住民8名, 教育委員会2名, 教員2名】

7月

- ・通学路危険箇所のとりまとめ及び現地調査(7/1)
- ・定例校長会に参加。進捗状況確認及び学校安全だより発行説明(7/10)
- ・土佐警察署いのり舎のアドバイザー及び警察官を講師招聘し、日高村青少年育成センターと連携して誘拐防止及び万引き防止について学ぶ。
*誘拐防止教室実施(7/16)【参加人数：1・2年42名, 教職員5名】
*非行防止教室実施(7/18)【参加人数：3～6年87名, 教職員9名】
- ・第1回高知県防犯・生活安全教育推進委員会に参加。拠点校の事業計画及び進捗状況報告(7/17)

- ・生活安全標語・生活安全ポスターの取組(7/20)
- ・日高村学校安全だより①発行(7/20)
- ・教職員による学校安全点検(7/20～25)

< 夏季休業中 >

- ・「学校安全計画」・「危機管理マニュアル」見直し検討・改善(8/6～9)
- ・学校安全室推進講習会(県教委主催)に参加(8/21)【参加人数：3名】
- ・学校安全に関する校内研修実施。学校安全教室推進講習会報告と拠点校としての取組状況確認及び方向性確認(8/29)

< 2学期 >

9月

- ・シェイクアウト訓練①(9/2)【参加人数：児童130名,教職員18名】
- ・生活安全標語とりまとめ(9/3)
- ・定例校長会に参加。取組進捗状況報告(9/4)
- ・第3回学校運営協議会開催。学校安全教室推進講習会伝達研修及び取組内容の検討、通学路等の危険個所の対策協議。各学年安全標語審査(9/4)
【参加人数：保護者・地域住民7名,教育委員会2名,教員3名】
- ・基本的生活習慣調査②(9/9～15)
- ・通学路安全対策連絡協議会に参加。危険個所についての協議、点検、対策協議(9/17)
- ・生活安全標語及び生活安全ポスターの提供(9/27)

10月

- ・定例校長会に参加、取組進捗状況報告(10/10)
- ・第1回日高村実践委員会(事業説明・研修)に参加(10/21) 事業計画・取組進捗状況報告。学校安全対策課を招き、研修を実施【参加人数：14名】日高村生活全ポスター審査【参加人数：13名】
- ・生活科「校内安全点検」に係る事前授業打ち合わせ(10/21)【参加人数：7名】

11月

- ・シェイクアウト訓練②(11/5)【参加人数：児童130名,教職員18名】
- ・起震車体験(11/5)【参加人数：3年21名,5年24名,教職員6名】
- ・生活科「学校安全について考えよう」授業実施(11/6)「けが0の日下小学校」にするためにどうすればいいのか考える。授業後、今後の方向性確認
講師：学校安全対策課清久博文チーフ【参加人数：1年18名,2年24名,教職員7名】
- ・定例校長会で取組進捗状況報告(11/7)
- ・生活安全標語のぼり旗完成(11/7)
- ・日高村少年補導育成センター街頭キャンペーンにおいて生活安全標語のぼり旗を活用し啓発(11/11)
- ・1年校内安全点検実施(11/15)【参加人数：18名,教職員2名】
- ・避難訓練(不審者対応)③実施(11/25)土佐警察署いのち舎と連携し、不審者対応について学んだ後、事後研修を行い、反省及び改善点の確認

【参加人数：児童130名,教職員18名,教育委員会1名,各校学校安全担当3名,スクールガ

ード・リーダー1名, 日高村少年育成センター1名】

- ・避難訓練(火災)②(11/29)仁淀消防署日高分署と連携し、安全に避難することを学ぶ
【参加人数：児童 130名, 教職員 18名】

12月

- ・1年校庭安全点検実施(12/2)【参加人数：18名, 教職員 2名】
- ・生活安全アンケート(対象：児童・保護者・教職員)②実施(12/2)
- ・2年校内安全点検実施(12/4)【参加人数：24名, 教職員 2名】
- ・第4回学校運営協議会の開催(12/5) 取組成果・課題の報告及び学校安全標語のぼり旗披露
【参加人数：保護者・地域住民 5名, 教育委員会 2名, 教員 3名】
- ・2年校庭安全点検実施(12/6)【参加人数：24名, 教職員 2名】
- ・執行委員会の挨拶運動の際にのぼり旗を活用し啓発(12/7)
- ・職員会において取組内容を確認(12/11)
- ・日高村学校安全だより②発行(12/11)
- ・1・2年合同授業で校内安全点検結果について共有(12/12)
 - *「けが0の日下小学校」にするために、校内外の危険や安全を一緒に考える
 - *危険個所の修理を学校安全担当に依頼【参加人数：1年 18名, 2年 24名, 教職員 7名】
- ・定例校長会で取組実践報告(12/17)
- ・日高村安全に関するアンケート②回答(12/19)
- ・「犯罪のない安心安全まちづくりポスター」選考結果到着(12/24) 入選 1名・佳作 2名
- ・校内で実践報告(12/25)
- ・校庭遊具の修理 PTA 役員に依頼(12/25)
- ・廊下白線修正職員作業(12/25～26)
- ・成果発表会及び第2回日高村安全教育実践委員会に参加(12/26)
 - *事業実践報告(取組発表：拠点校としての生活安全教育について)
 - *学校安全対策課を招き、研修を実施。【参加人数：31名】
- ・教職員による校内安全点検(12/20～27)

< 3学期 >

1月

- ・定例校長会で継続的な取組内容の発表(1/15)
- ～ 委託契約終了後 ～
- ・基本的生活習慣調査③(1/20～26)
- ・ペースランニング試走見守り活動(1/22, 28, 31)
- ・愛校作業において、保護者による遊具修理(1/26)
- ・2年児童集会発表(1/30)点検結果をもとに、「けが0の日下小学校」にしよう」と全校児童へ情報発信
- ・避難訓練(地震)④(1/31)【参加人数：児童 130名, 教職員 18名予定】

2月・3月

- ・ペースランニング試走見守り活動(2/3)
- ・生活朝会で健康委員会から安全な歩行、遊具の使い方を発表(2/3)
- ・ペースランニング(2/4)保護者・スクールガード・リーダー等見守り
- ・第2回高知県防犯・生活安全教育推進委員会への参加(2/6) 取組成果等の報告・発表
- ・保育一日入学学校案内(2/13) 1年生が案内する際に「けが0の日下小学校」にするために安全を意識した校内案内にする
- ・第5回学校運営協議会(2/21)
 - *事業取組実践報告、学校安全教育の改善及び推進体制の継続に向けた協議
- ・「学校安全計画」・「危機管理マニュアル」検証・改善
- ・日高村学校安全だより③発行
- ・校内安全点検

<令和2年度予定>

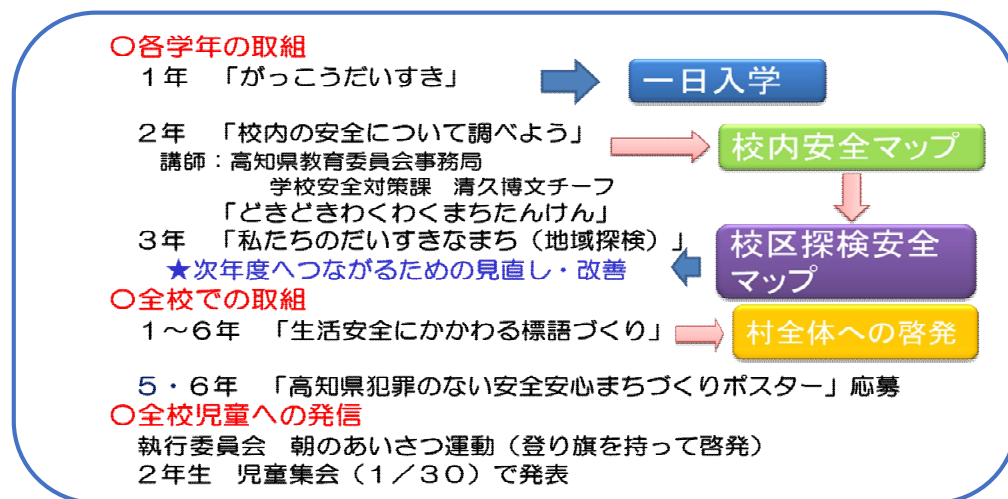
- ・組織職員会で防犯を含む学校安全の取組継続を教職員で共有
- ・2年生活科「1年生を迎えよう」で活用
- ・3年生社会「地域探検」で活用。校区地図で防犯を意識した地図作り
- ・第2回学校安全教室推進講習会での実践発表

5. 実践事例

本年度は昨年度までの取組の見直し・改善を図り、来年度の取組に生かすことを目的とし、6つの取組を行うこととした。

(1) 生活科を中心とした探究的な学習

「主体的に考え、身のまわりにある危険を予測して自ら回避し、安全に行動できる児童の育成」を目的として、本年度は1・2年生の生活科の見直しを図り、探究的な学習に取り組むこととし、来年度3年生社会科の学習につなげていくようにした。ここでは、1・2年生の学習について取り上げる。



① 学校の安全について考えよう（1・2年生：生活科）

1年生は2月に行う一日入学の時の案内につなげていくこと、2年生は「安全に過ごすためにはどう

したらよいのか」ということを考え、同じ単元名でも、1年生・2年生それぞれのねらいとゴールを決め、教員も児童も見通しを持って取組を行うようにした。学習のまとめとして、点検してわかったことから「けが0の日下小学校」にするためにはどうすればよいのか考え、児童集会で全校児童に発信するよう計画した。

生活科 学校の安全について考えよう		
時数	1年生	2年生
1	導入授業「学校の安全について考えよう」① 【ねらい】学校の施設の安全な利用の仕方について、関心を持つことができる。	
2	安全点検 ①校内 ②校庭 【ねらい】学校生活で安全に気を付ける場所について気付くことができる。	【ねらい】学校生活で安全に気を付ける場所に気付き、どのようにすれば安全に過ごせるか考える。
3	合同学習「調べたことをまとめよう」 【ねらい】安全に気を付けないといけない場所について伝え合う。	
4	【ねらい】安全に気を付けないといけない場所について伝え合う。実際に確認することで、安全に過ごそうという気持ちを持つことができる。	【ねらい】安全に気を付けないといけない場所について伝え合う。実際に確認し、まとめることで安全に過ごそうという意識を高めることができる。
5	「保育1日入学」 【ねらい】来年度入学してくる新しい1年生（年長児）に、喜んでもらいたいという思いをもち、新しい1年生にも分かるように工夫して、安全な学校生活のことを教えたり、いっしょに楽しく遊んだりすることができる。	「地域探検」(3年 1学期) 【ねらい】自分たちの住む町の様子や安全について調べ、絵地図に表すことができる。安全に登下校したり、生活したりすることができる。
6	「1年生をむかえよう」(2年 1学期) 【ねらい】1年生が、安心して学校生活を送れるように、学校生活のことを紹介したり、いっしょに遊んだりすることを通して、自分たちが成長し、進級したことを実感するとともに、これから意欲的に2年生の生活を送ろうとすることができる。	

② 生活科の学習（6時間扱い）

【11/6（水）事前学習】

事前学習として学校安全対策課の清久博文チーフを講師招聘し、1・2年生に「学校の安全について考えよう」という授業を行った。危険な場所を探すだけでなく、安全に過ごすためにはどうすればよいのかということ子どもたちに考えさせる授業であった。

授業後は、担任、管理職、学校安全担当がその場で事後研を行い、次の時間からの活動につなげていけるよう指導・助言をいただいた。



【11/15（金）～12/11（火）校内・校庭点検活動】

11/15（金）から1年生・2年生それぞれが目的意識を持ち、校内外の安全点検を行った。

2年生は、昨年度けがで救急車を呼んだこともあり、けがをしない生活を送るためにどうすればよいのか考えながら点検を行っていた。本校にだけしかないと思われる手すりがあるすべり止めに注目し、「これがあるとすべる人がいないから安全やね」と気づいたことを友だちと話しながら確認する場面もみられた。

また、1階の教室には、黒板の下に不審者が侵入した時に鳴らすベルがついており、そのことにも気がついた児童もいた。事前学習で学んだことをいかし、危険箇所を探すだけでなく、安全に学校生活を送るためには、



どんなことに気をつけるのか考えながら点検ができた。

校庭の点検では、シーソーに乗って見ないとわからない子ども目線の危険なところもみつけることができた。年間3回、学期ごとに教職員が点検しているが、大人目線ではわからないところだったので、安全点検の目を変えることの大切さを改めて感じた。

12/2（月）から各学年で危険なところや気を付けることなどシールを張ってまとめた。



【12/12（木）「けが0の日下小学校」にするために】

1・2年生合同授業とし、自分たちが点検して危険なところや気づいたことを発表し合い、『けが0の日下小学校』にするにはどうすればいいのか考えた。その中で、廊下にある中央線が消えかかっていたことやシーソーのクッション変わりとなっているタイヤが切れていることなど、直してほしい所を学校安全担当に伝えた。

学校安全担当が遊び方や廊下でのけがをなくするための歩き方などを確認すると、合同授業以降気をつけて廊下を歩いたり、自分たちで声を掛け合ったりするなど、子どもたちの安全に対する意識向上がみられた。



【1/30（木）児童集会発表（2年生）】

「けが0の日下小学校」にするために、危険箇所を伝えるだけでなく、けがをしないためにはどうすればいいのか、具体的に学習したことを発表した。その後、縦割り班に分かれ、2年生の発表からわかったことやこれからどうすれば安全に学校生活を送れるのかということを行行詩にまとめた。



白い線の
右側を歩くことを
気をつける

ぼくたちを
守る工夫と
守る気持ち

1年生は、2/13（木）に行われる保育一日入学の案内で学習したことを活用し伝えるとともに、来年度2年生になった時にも再度学校案内で伝えるように取り組む予定である。また、2年生は、来年度3年生の社会科「私たちのだいすきなまち」につなげ、地域探検で作るマップに防犯上の安全にかかわる内容を入れる予定である。

（2）教科等横断的な視点での学校安全計画の見直し及び改善

学校安全計画の見直しを図り、本年度実践しながら教科等横断的な視点で改善を図り整理した。

（資料1）

（3）校内外の安全点検方法の改善

教職員による校内安全点検は学期に1回行っているが、年間通じて同じ点検個所だったため、本年度は点検個所をシャッフルし、違う目線での点検を行った。点検する担当が変わることで安全に対する意識向上にもつながった。

生活科の見直しを図り、1・2年生が校内外の点検を行った結果について学校安全担当に報告があった。そこで、廊下の中央線を引き直す等職員作業を行ったり、PTA役員に遊具の修理を依頼したりした。点検する担当を変えることや児童目線での気づきが大切だと感じた。

また、学校安全に関する内容を職員会の中に適宜位置づけ、安全教育に対する教職員の意識向上に努めた。学校安全担当が校庭の遊具の点検を行った際に遊具の遊び方に疑問を持ち、「けが0の日下小学校」にするために遊具での遊び方や廊下の歩き方について提案し、教職員で共有を図り、児童への指導に生かすようにした。



（4）特別活動を中心とした児童の安全意識向上と主体的な活動の充実

① 委員会活動の充実

特別活動担当、学校安全担当と連携し、各委員会活動の見直しを図り、取組を行った。

○執行委員会：6月を安全に生活できるための目標とし、各学年が具体的目標を話し合った。

朝のあいさつ運動でのぼり旗を活用し安全意識の啓発

○新聞委員会：校内の安全点検、折れた画鋸や不要なフックの除去

○放送委員会：安全に過ごすための言葉を入れた校内放送の導入

○体育委員会：一輪車など遊び道具の点検

○健康委員会：生活朝会で遊具の安全な使い方や廊下の歩き方等安全意識の啓発

○図書委員会：安全に関する書籍の購入や紹介、安全に関する書籍コーナーの設置

◎代表委員会：学級で、安心安全に過ごすための学校・委員会・他の学年へのお願いを出し合い、実現していく。

(5) 地域や家庭と協働した学校安全推進体制の構築

① 安全教育実践委員会による協働

年間2回の安全教育実践委員会では、事業計画の説明、研修（講師：学校 安全対策課吉門企画監・清久チーフ）、実践報告、協議、情報交換等を行った。



② 学校運営協議会による協働

年間5回行われる学校運営協議会では、事業及び事業計画の説明、危険個所の共有、安全標語の審査、取組状況報告、実践報告、協議、情報交換を行った。

③ 地域や家庭と協働した安全教育や見守り活動

地域コーディネーターや地域ボランティア、スクールガード・リーダー、保護者等と連携し、児童玄関が開くまでの児童見守り、1年生の下校指導、交通安全教室、ペースランニング、交通指導等、児童の安全確保へも多くの協力があった。また、安全教育に関する研修や不審者対応訓練にも参加していただき、安全教育に関する共有ができた。



④ 地域や家庭ぐるみで行う安全意識の醸成

日高村安全だよりを学期に1回発行、校長室だよりで安全教育の取組について年間を通して適宜発行し、家庭・地域・村内各学校に配布し情報の発信に努めた。また、毎月開催される日高村校長会で取組状況について報告し合うことで情報共有や取組の進捗状況の確認ができた。

(6) 心身の健康管理を主体的に行える児童の育成

けがによるスポーツ振興センター申請件数について過去3年間をみると、平成29年度は13件、平成30年度は11件であったが、本年度は12月末までで5件と大きく減少している。件数が減少したのは、学校全体が落ち着いてきたこともあり、そのことが心身の健康状態に大きく影響し、結果として児童の安全につながっている。また、児童も教職員も指定事業をきっかけに、学校安全を意識するようになったことも減少に繋がっている。

ケガの内訳は様々で、休み時間に遊んでいてのケガが大半である。原因は、思いもよらないことが多く遊び方に問題を感じている。今後は、各委員会を通じ、遊具の使い方・遊び方について話をしていくことで、「けが0の日下小学校」になるよう取組を継続していくようにしたい。

6 成果と課題

(1) 成果

6月及び12月の児童・保護者・教職員対象に生活安全意識調査を実施し、意識の変容を検討した。その結果、大きく変容した項目はなかったものの肯定的回答の割合が高くなっている。(資料2) 主な成果は以下の通りである。

- 生活安全標語を家族と一緒に作る等取組を行うことで、課題であった【犯罪事故にあわないために】の領域において、登下校中に危険を感じた時、逃げ込むという意識が向上し、できるだけ友だちと一緒に登下校する児童が増えている。また、4年生以上の自由記述においても6月より12月の方が安全に関する記述が多くなり、「決められた道を通る」や「一人で帰らない」等意識の向上がみられた。
- 【地域社会の一員として】の領域において、児童玄関が開くまで毎日見守り活動をしてくれる等、安全に協力してくれている地域の方を知るという意識が向上してきた。いつもいてくれる地域の方の存在が当たり前ようになっており、児童の中でも意識されていなかったように感じる。今回取組を行うことで、地域の方の名前を知り、自分たちの安全を見守ってくれていることに気づきがあった。また、4年生以上の自由記述でも、「予防策としてたくさんの人と顔見知りになる」「防災グッズを身につける」「いかのおすし」等も書いている。さらに、地域ボランティアの名前を覚える等、児童の意識向上につながっている。

犯罪事故にあわないために	1回目	2回目	変化	地域社会の一員として	1回目	2回目	変化
できるだけ友だちと一緒に登下校している	70%	80%	+10p	あなたは、地域の方にあいさつをしている。	94%	98%	+4p
学校に不審者が入ってきたとき、避難の仕方を知っている	83%	91%	+8p	登下校中や学校生活を安全に過ごすために、協力してくださっている地域の方を知っていますか。(顔を知っている含む)	84%	97%	+13p
地域の危険な場所に気を付けながら登下校している	84%	91%	+7p				

- 教職員の意識調査において、13項目すべての項目で数値があがった。特に「子どもの安全を守るために協力してくださっている地域の方を知っていますか」の項目で、6月は89%だったのが12月は10%、「AEDの使い方や心肺蘇生法の仕方を知っていますか」の項目で、6月は94%だったのが12月は100%になる等、教職員の意識の変容がみられた。また、日頃から地域の方とあいさつをする等関わりを持ち、情報交換することが大切であるという記述もあり、学校担当を中心として計画的に安全教育の実践を重ねてきた成果と考えている。

児童の点検活動で気がついたところを全教職員が職員作業を行うことも、学校安全に対する意識向上にもつながっている。「けが0の日下小学校」になるよう日々の児童の行動につなげていきたい。

- 各委員会での安全に関する活動について、これまで行ってきた活動を見直し、学校安全を意識した様々な取組がなされ、活性化につながっている。児童の安全に対する主体的な態度が向上したことがうかがえる。

- 本年度学校安全計画を実践しながら見直しを行い、教科横断的な視点で整理し改善を図った。作成した安全計画を村内の小学校と共有した。
- 保護者・地域・関係機関等、見守り活動や安全確保に協力をしていただいた。児童は、この活動を通して、たくさんの地域の方々に大切に見守られていることを実感することができ、学習への意欲づけにもつながった。また、今まで以上に地域の方とつながり、教職員にとって大きな励みとなった。
- 本年度は「けが0の日下小学校」をめざし、けがに注目して保健室経営を行った。以前はけがの患部を水洗いして来室する児童はいなかったが、声掛けを継続することで意識が向上し本年度は患部を水洗いして来室する割合が100%となった。また、スポーツ振興センターに申請した件数は、2017年度13件、2018年度11件であったが、本年度は5件と大きく減少しており、教職員・児童の安全に対する意識の向上や学校全体が落ち着いていることがけがの減少に反映されている。

【課題】

- 意識調査の【けがや事故を防ぐために】の設問において、けがで保健室に来る児童はけがの後水洗い100%であったにも関わらず、「けがの種類と応急手当、止血法などの仕方を知っている」児童は6月・12月ともに50%を下回っており、児童の意識向上につながっていなかった。保健領域や学級指導等でも取り組む必要がある。
- 児童の意識調査結果から、学習や取組直後は意識が向上しているため行動や数値に表れているが、時間が経過するにつれて意識が低くなる傾向がみられるため、教職員も意識して声掛けや取組を進めていく必要がある。
- 多動・衝動的な傾向のある児童が多く在籍しており、今後も継続して意識向上の取組を進めていく必要がある。本年度はスポーツ振興センターへの申請件数が減少したが、遊具の使い方や廊下の歩き方等、けがや事故がないよう、安全に気をつけて行動できるよう児童の安全意識向上とともに行動レベルでの変容がみられるようにしていきたい。また、教職員の意識向上にもつなげていきたい。
- 教科横断的な学校安全計画の見直しを行い、生活科の取組内容の改善を図ったが、社会科や総合的な学習の見直しのみになってしまい、実践につなげることができなかった。今後は、本年度見直したことを実践し、改善することで本校に合った安全教育を行っていきたい。
- 本年度は指定事業を受け、本校の安全教育の取組の見直し・改善を図ってきた。今後は、来年度に向け持続可能で効果的な取組を計画的に続けていけるようにしたい。

7 おわりに

本年度、拠点校として取り組みを進めていく中で、生活科の探究的な学習につなげたり、教科横断的な視点での学校安全計画の見直しを行ったりして改善することができた。昨年度けがが多かった2年生であるが、生活科「学校安全について考えよう」という学習をすることにより、「けが0の日下小学校」をゴールイメージとし取り組んできた。学校安全対策課の清久博文チーフから教えていただいた「危険個所だけを伝えるのではなく、危険個所を知り安全に過ごすため

にはどうすればよいのか考えることが大切」という言葉をしっかり受け止め、1月30日（木）の児童集会で全校児童に発信することができた。2年生の発表を受け、2月3日（月）の生活朝会で「遊具の遊び方と右側通行について」という内容で全校児童に呼びかけを行った。

教職員の学校安全に対する意識においても、学校安全点検や廊下の白線を引き直す作業、遊具の遊び方の指導等、学校安全担当だけが進めるのではなく全教職員が同じ方向性で進めることができたことにより、児童の意識向上にもつながっているように感じている。また、地域や関係機関の方を知ることにもつながっており、教職員の意識が向上につながっている。

子どもたちは家族や地域から温かく見守られて育っていることに気づき、命の大切さや安心・安全に生活するには何が大切なのかを主体的に考えることができるよう取組を計画的に継続させるとともに今後も安心・安全な学校づくりをめざしていきたいと考えている。

学校のあんぜんてんけん

★日高村・日下小★

ぼくたちは、学校であぶないところや、あぶないことから人をまもるものをさがしました。

学校の中にも、そとにも、あぶないものとあんぜんなものがありました。ゆうぐは、つかいかたであぶなくなるとおもいました。みんなが、あんぜんにつかうように、気をつけたらいいとおもいます。

わたしが見つけた、学校にあるあんぜんなものは、かいだんのよこにある「ぼう火とびら」です。音がくしつには、シューターがあつて、火じのときにつかうことができます。

学校のうんどうじょうには、サッカーゴールがあります。ゴールにぶら下がったりしたらあぶないので、けがのないようにあんぜんにあそんだらいいとおもいました。

（1年、矢野連都、岡本碧海記者）



XVI 学 校 安 全 計 画

重点テーマ: 主体的に考え、身のまわりにある危険を予測して自ら回避し、安全に行動できる児童の育成

項目	月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3
月の重点		安全に登下校しよう	体育用具や遊具を安全に使う	雨の日の過ごし方を工夫しよう	事故を防ごう危険から身を守ろう	交通安全のきまりを守ろう	戸外で安全に遊ぼう	明るいうちに家に帰ろう	火の始末をしっかりとしよう	寒い時の交通安全に気を付けよう	災害から身を守ろう	安全生活の反省をしよう安全な生活を送ろう
道徳		規則尊重	生命の尊重	思いやり・親切	勤勉・努力	明朗誠実	思いやり・親切	家庭愛	勇気	勤勉努力	節度節制	愛校心
安	生活	・地域巡り時の交通安全 ・遊具の正しい使い方	・まち探検時の交通安全 ・ 校内の安全 ・移植ペラ・スコップの使い方	・安全な生き物探しの仕方	・水中の生き物の安全な取り方	・安全な生き物探しの仕方 ・おもちゃを作る時の安全な道具の使い方	・図書館に行く時の交通安全	・まち探検時の交通安全 ・おもちゃを作る時の安全な道具の使い方 ・ 学校の安全について考えよう	・はさみ、ステープラーの使い方	・まち探検時の交通安全 ・はさみの使い方	・昔遊びの安全な行い方 ・ 新入生を迎えよう(1年)	・移植ごての使い方
	社会		・町の中の安全(3年) * 防犯含む ・災害及び事故の防止(3・4年)	・災害及び事故の防止(3・4年)					・我が国の情報産業や情報化した社会の様子(5年)	・我が国の政治の働き(6年)		・我が国の国土の自然などの様子(5年)
	理科	・野外観察の交通安全 ・虫めがね、アルコールランプ、虫めがね、移植ごての使い方	・カバーガラス、スライドガラス、フラスコの使い方	・スコップ、ナイフの使い方	・夜間観察の安全 ・試験管、ピーカーの使い方	・観察中の安全・フラスコ、ガラス管の使い方	・太陽観察時の注意	・ポリ袋、ゴム風船の使い方	・鏡、凸レンズ、ガラス器具の使い方	・スコップ、ナイフの使い方	・夜間観察の安全 ・試験管、ピーカーの使い方	・観察中の安全・フラスコ、ガラス管の使い方
	図工	・はさみ、カッター、ナイフ、絵の具、接着剤の安全な使い方	・写真場所の安全・コンパスの安全な使い方	・糸のこぎり、小刀、金槌、釘抜きの使い方	・木槌、ゴム、糸のこぎり、ニスの使い方	・作品の安全な操作	・彫刻刀の管理の仕方と使い方	・水性ニスの取り扱い方	・竹ひご、細木の使い方	・糸のこぎり、小刀、金槌、釘抜きの使い方	・木槌、ゴム、糸のこぎり、ニスの使い方	・作品の安全な操作
	家庭	・針、はさみの使い方	・アイロンのかけ方	・食品の取り扱い方	・包丁の使い方	・実習時の安全な服装	・熱湯の安全な取り扱い方	・ミシンの使い方	・油の安全な取り扱い方	・食品の取り扱い方	・包丁の使い方	・実習時の安全な服装
	体育	・走・跳運動(かけっこ、リレー)時の安全	・器械運動(跳び箱・マット)時の安全	・水泳前の健康観察 ・水泳時の安全		・走・跳運動(幅跳び)時の安全	・器械運動(鉄棒)時の安全	・表現運動時の安全 ・けがの防止(保健)	・ボール運動時の安全	・走・跳(持久走)の運動時の安全	・用具(なわとび)を操作する時の安全	・けがの防止(保健)
総合的な学習の時間	「日高のお宝発見! 日高村の文化を調べよう」(3年)、「日高のお宝発見! 日高村の自然を調べよう」(4年)、「日高のお宝発見! 日高村の産業を調べよう」(5年)、「日高のお宝発見! 日高村の歴史を調べよう」(6年)											
全 教 育 動	低学年	◎安全な登下校 ●通学路の確認 ●安全な給食配膳 ●子ども110番の場所	◎避難訓練(地震)の参加の仕方 ●休み時間の約束 ●遠足時の安全 ●運動時の約束 ★「地震が来たらどうする?」	◎プールの約束 ●雨天時の約束 ●誘拐から身を守る ● 熱中症の予防 ★「津波や土砂崩れから身を守るには?」	◎ 非行防止教室 ●夏休みの安全な過ごし方 ●落雷の危険	◎校庭やベランダの使い方のきまり ●運動時の約束 ★「弾道ミサイルが飛んできたらどうする?」	◎乗り物の安全な乗り降りの仕方 ●廊下の安全な歩行の仕方 ★「地域の避難場所を確かめよう?」	◎校庭の使い方ときまり ●安全な登下校 ● 火災、不審者対応避難訓練事前、事後指導 ★「揺れがおさまっても…まだ続く危険とは?」	◎冬休みの安全な過ごし方 ●安全な服装	◎「いかのおすし」の約束 ●危ないものを見つけた時 ● 地震避難訓練事前、事後指導 ◎防犯教室	◎身近な道路標識 ●暖房器具の安全な使用 ★「避難生活ってどんなもの?」	◎けがをしないうちに ●1年間の反省
	中学年	◎安全な登下校 ●通学路の確認 ●安全な委員会活動 ●安全な清掃活動 ●誘拐の起こる場所 ● 自転車乗車時の約束	◎避難訓練(地震)への積極的な参加 ●休み時間の安全 ●遠足時の安全 ●運動時の約束 ★「南海地震が来たらどうなるの?」	◎安全なプールの利用の仕方 ●雨天時の安全な過ごし方 ●防犯に関わる人たち ● 熱中症の予防 ★「どこにいても、地震の揺れから自分を守ろう」	◎ 非行防止教室 ●夏休みの約束 ●落雷の危険	◎校庭やベランダの使い方のきまり ●運動時の安全な服装 ★「弾道ミサイルが飛んできたらどうする?」	◎乗り物の安全な乗り降りの仕方 ●校庭・遊具の安全な遊び方 ★「津波が心配! 揺れたら急いで高台へ」	◎校庭の使い方ときまり ●安全な登下校 ● 火災、不審者対応避難訓練事前、事後指導 ★起震車体験学習(3年)	◎冬休みの安全な過ごし方 ●凍結路の事故とけが ★「揺れがおさまっても…危険は続く」	◎安全な身支度 ●「いかのおすし」の約束 ● 地震避難訓練事前、事後指導	◎自転車に関係のある道路標識 ●暖房器具の安全な使用 ★「避難生活について考えよう」	◎けがをしやすい時間と場所 ●1年間の反省
	高学年	◎安全な登下校 ◎身の回りの犯罪 ●通学路の確認 ●安全な委員会活動 ●交通事故から身を守る ● 自転車の点検	◎避難訓練(地震)の意義 ●休み時間の事故とけが ●遠足時の安全 ●運動時の事故とけが ★「南海地震に備えよう」	◎安全なプールの利用の仕方 (救急法) ●雨天時の安全な過ごし方 ● 熱中症の予防 ● 修学旅行、宿泊合宿の安全 ★「災害と情報」	◎自転車乗車時の約束 ●夏休みの事故と防止策 ●大雨・落雷・竜巻の危険	◎校庭やベランダの使い方のきまり ●運動時の事故とけが ★「弾道ミサイルが飛んできたらどうする?」	◎乗車時の事故とけが ●校庭・遊具の安全点検 ★「山の津波『土砂災害』」	◎校庭で起こる事故の防止策 ●安全な登下校 ● 火災避難訓練事前、事後指導 ● 不審者対応訓練事前、事後指導 ★起震車体験学習(5年)	◎冬休み中の事故やけが ●凍結路の歩き方 ★「これが大切! 我が家の備え」	◎災害時の携行品 ●安全な身支度、衣服の調整 ● 地震避難訓練事前、事後指導	◎交通ルール ●暖房器具の安全な使用 ★「避難生活について考えよう」	◎けがの種類と応急措置 ●1年間の反省
	児童会活動等	・対面式 ・委員会活動開始 ・児童集会	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会 ・クラブ活動	・児童集会
主な学校行事等	・入学式・健康診断 ・交通安全運動 ・交通安全教室	・避難訓練(地震) ・ ネット被害防止教室	・プール開き ・避難訓練(引き渡し) ・修学旅行(6年) ・合宿(5年) ・救急法講習会(5、6年)	・北一水泳記録会 ・ 安全点検	・交通安全運動	・北一陸上記録会 ・避難訓練(不審者)	・避難訓練(火災)	・交通安全運動 ・ 安全点検	・交通安全運動 ・避難訓練(地震)		・卒業式 ・ 安全点検	
安全管理	対人管理	・安全な通学の仕方 ・固定遊具の安全な使い方 ・ 自転車乗車時のきまり、点検、整備	・安全のきまりの設定	・校舎内での安全な過ごし方 ・プールでの安全のきまりの確認 ・ 引き渡し訓練 ・ 生活安全教育アンケート	・野外活動時の安全な活動	・校庭での安全な過ごし方	・校外学習時の安全な歩き方	・安全な登下校	・凍結路の歩き方 ・ 生活安全教育アンケート	・災害時の身の安全な守り方	・道路標識の種類と意味	・1年間の評価と反省
	対物管理	・通学路の安全確認 ・安全点検年間計画の確認(点検方法等の研修会)	・諸設備の点検及び整備	・学校環境の安全点検及び整備 ・プールの水質管理	・夏季休業前や休業中の校舎内外の点検 ・プールの水質管理	・校庭などの校舎外の整備	・通学路周辺の安全確認	・諸設備の点検及び整備	・校内危険個所の点検	・防災用具の点検・整備	・学区内の安全施設の確認	・通学路の安全確認・安全点検の評価、反省
学校安全活動に関する組織活動		・校外における児童の安全行動把握、情報交換 ・ 地域パトロール	・春の交通安全運動期間の教職員の校外指導 ・ 地域パトロール	・ 校区危険個所調査 ・ 地域パトロール	・地域パトロール	・登下校時、秋の交通安全運動期間の教職員の校外指導 ・ 通学路安全対策連絡協議会 ・ 地域パトロール	・ 地域パトロール	・ 地域パトロール	・年末年始の交通安全運動の啓発 ・ 地域パトロール	・地域パトロール	・ 地域パトロール	・ 地域パトロール
	研修	・遊具等の安全点検方法等に関する研修 ・通学路の状況と安全指導に関する研修	・ネット被害防止研修(PTA共催) ・心肺蘇生法(AED)研修 ・防災に関する研修(訓練時)	・熱中症予防に関する研修 ・心肺蘇生法(AED)研修(応急手当を含む)PTA共催 ・防災に関する研修(訓練時)			・防犯に関する研修(緊急時の校内連絡体制、マニュアルの点検)	・防災に関する研修(訓練時) ・ 不審者対応訓練	・防災に関する研修(訓練時)			

* 学級指導の欄 (◎・・・1単位時間程度の指導 ●・・・短い時間の指導) ★・・・防災の授業)

資料 2

生活安全意識調査結果：児童（全学年共通項目）肯定的回答

領域	全学年共通	1回目 (6月)	2回目 (12月)	変化
けが	道具や遊具などを正しく使っている。	96%	89%	-7P▼
けが	廊下や階段を正しく通っている。	84%	76%	-8P▼
けが	校内では、上履きをきちんとはいている。	85%	91%	+6P△
犯罪	できるだけ友達と一緒に登下校している。	77%	85%	+8P△
犯罪	登下校のとき、決められた道を通っている。	95%	95%	± 0 P
犯罪	防犯ブザーや防犯笛などを身に付け、その使い方を知っている。	57%	49%	-8P▼
犯罪	学校に不審者が入ってきたとき避難の仕方を知っている。	83%	93%	+10P△
犯罪	自分の身を守るための約束（「いかのおすし」「おひなくこ」など）を知っている。	92%	95%	+3P△
犯罪	地域の危険な場所（入りやすく、見えにくい場所など）に気を付けながら登下校している。	91%	93%	+2P△
犯罪	登下校中に危険を感じたとき、逃げ込む所（「こども 110 ぼんの家」など）を知っている。	92%	93%	+1P△
犯罪	事件や事故にあいそうになったら、すぐに、家族や学校に伝えることができる。	91%	88%	-3P▼
家族	出かけるときは、行き先、帰る時刻を家族に伝えている。	88%	92%	+4 P△
地域	地域の方にあいさつをしている。	95%	97%	+2 P△



生活安全意識調査結果：児童（4～6年）

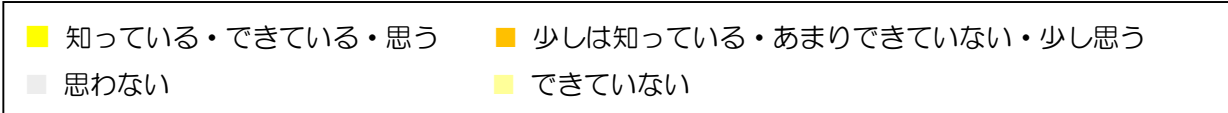
肯定的回答

	高学年（4～6年）のみの質問項目	1回目 (6月)	2回目 (12月)	変化
けが	道具を使うときは、周りの安全に気を付けている。	95%	89%	-6P▼
けが	雨の日には、登下校や学校での過ごし方に気を付けている。	83%	80%	-3P▼
けが	校内の立ち入り禁止場所（ベランダや屋上など危険な場所）には行かない。	84%	82%	-2P▼
けが	川や海、山、池などの危険を知っている。	88%	88%	±0P
けが	けがの種類と応急手当、止血法などの仕方を知っている。	47%	48%	+1P△
けが	AEDの使い方や心肺蘇生法の仕方を知っている。	77%	67%	-10P▼
けが	119番への正しい通報の仕方を知っている。	92%	85%	-7P▼
犯罪	できるだけ友だちと一緒に登下校している。	70%	80%	+10P△
犯罪	学校に不審者が入ってきたとき、避難の仕方を知っている。	83%	91%	+8P△
犯罪	地域の危険な場所（入りやすく、見えにくい場所など）に気を付けながら登下校している。	84%	91%	+7P△
犯罪	登下校中に危険を感じたとき、逃げ込むところ（「こども110ばんのいえ」など）を知っている。	88%	94%	+6P△
犯罪	下級生が安全に登下校するよう、下級生の様子を気にかけることがある。	63%	45%	-18P▼
家庭	出かけるときは、行き先、帰る時刻を家族に伝えている。	86%	88%	+2P△
家庭	携帯電話を操作しながらの移動はしない。	88%	88%	±0P
家庭	携帯電話やインターネットのSNSなどの危険を知っている。	97%	92%	-5P▼
地域	地域の方にあいさつをしている。	94%	98%	+4P△
地域	登下校中や学校生活を安全に過ごすために、協力して下さっている地域の方をしっている。 (役職は知らなくても顔は知っている含む)	84%	97%	+13P△

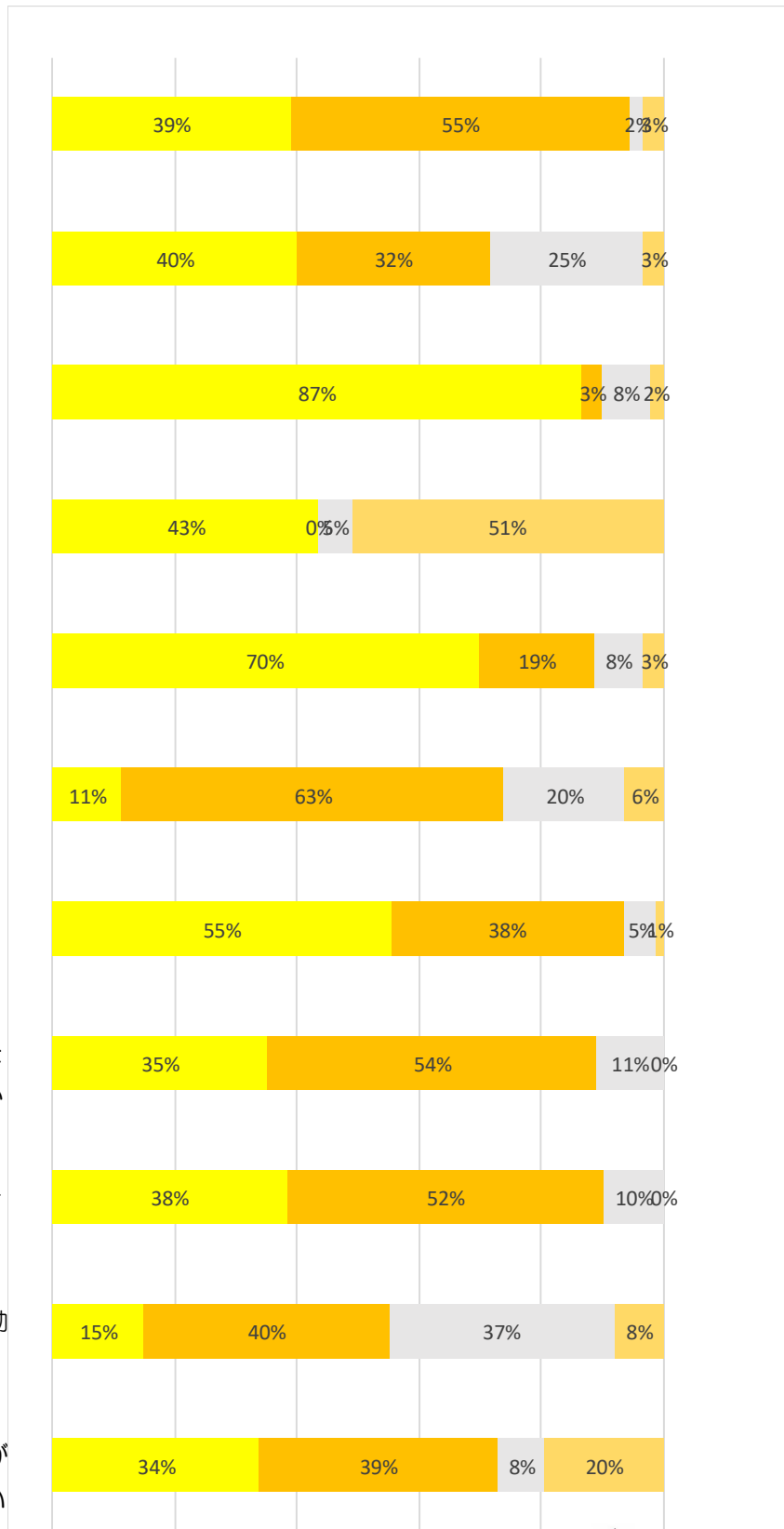
☆6月調査より12月調査の方が自分の考えを書く自由記述が多く、児童の意識向上につながっている。



生活安全意識調査：保護者（12月）



1. お子さんは、川や海、山、池などの危険を知っていますか
2. お子さんは、安全のために、一人でなく、できるだけ友達と一緒に登下校していますか
3. お子さんは、登下校のとき、決められた道を通っていますか
4. お子さんは、防犯ブザーや防犯笛などを身に着け、その使い方を知っていますか
5. お子さんは、出かけるときに、行き先、帰る時刻を家族に伝えていますか
6. お子さんは、携帯電話やインターネットのSNSなどの危険を知っていますか
7. AEDの使い方や心肺蘇生法の仕方を知っていますか
8. 地域や通学路の危険な場所や注意しなければならない場所について子どもと話をしていますか
9. 事件や事故にあわないようにするための方法について、子どもと話をしていますか
10. 地域や社会の安全を守る機関や地域の防犯活動を知っていますか
11. 学校は保護者・地域・関係機関等と協力しながら、積極的に子供の安全を守る取組を進めていると思いますか



生活安全意識調査結果：教職員

	1 回目 (6 月)	2 回目 (12 月)	変化
本校の児童は、学校生活において、けがや事故がないよう、安全に気を付けて行動していると思いますか。	89%	100%	+11 P△
本校の児童は、安全に気を付けて登下校していると思いますか。	94%	100%	+6 P△
本校の児童は、学校に不審者が侵入してきたときの、適切な避難行動の仕方を知っていると思いますか。	83%	100%	+17P△
危険な目にあったときなど、児童が学校の教職員に連絡・相談できる体制や雰囲気が、学校にあると思いますか。	100%	100%	± 0 P
登下校時の安全について積極的に児童へ声をかけるなど、日常的に、児童の安全意識の向上を図るための指導を行っていますか。	100%	94%	-6P▼
児童の通学路において、危険となり得る場所や注意すべき場所を把握し、指導に活かそうと努めていますか。	94%	94%	± 0 P
学校に不審者が侵入してきた際の、子どもの安全確保のための対処行動を知っていますか。(危機管理マニュアルが頭に入っていますか。)	89%	100%	+11 P△
安全点検の際には、見るだけでなく、実際にふれたり動かしたりして確認していますか。	89%	100%	+11P△
児童の気付きなどの情報を収集しながら、安全点検をしていますか。	94%	94%	± 0 P
A E D (自動体外式除細動器) の使い方や心肺蘇生法の仕組みを知っていますか。	100%	100%	± 0 P
子どもの安全を守るために、協力してくださっている地域の方を知っていますか。	89%	100%	+11P△
地域や社会の安全を守る機関や地域の防犯活動を知っていますか。	100%	100%	± 0 P
学校は保護者・地域・関係機関等と協力しながら、積極的に子どもの安全を守る取組を進めていると思いますか。	100%	100%	± 0 P

※ 回答の「思う」「少し思う・まだ不十分であるが努めている」の割合を比較

